

ZOWAオリジナルプロジェクト「君が私をダメにする」公開台本

▼使用に関する注意事項

「君が私をダメにする」公式サイト(<https://fun.zowa.app/lp/kimidame/>)に公開されている利用規約を必ず「一読いただき、規約に沿って」利用ください。

第9話 「給料三カ月分の指輪リボ払いで買ったやつ」

【登場人物】

ゆーくん:24歳

ちょっとだらしない感じがある青年

ちいちゃん:22歳

ゆるふわ女子、

喋り方作ってる感じ

【場面設定】

夜景の見える雰囲気の良いレストラン

ゆーくん 「さっちゃん、俺たち付き合っつて、もう半年くらい経つよね」

さっちゃん 「うん♡さっちはね、これからもうゆーくんと一緒にいたいん

だ♡

ゆーくん 「俺もーだからね…」

ちいちゃん 「どうしたの、ゆーくん」

ゆーくん 「俺と、結婚してください」

ちいちゃん 「え…」

ゆーくん 「これ、ベタだけど、給料3ヶ月分の指輪」

ちいちゃん 「本当に…？本当に…いいのお…？」

ゆーくん 「うん、ちいちゃんのために買ったんだ」

ちいちゃん 「わー、ちいすっくく嬉しい。

だからこんな高そうなレストランとかも準備してくれたんだ♡」

ゆーくん 「ね、めっ」

ちいちゃん 「アルバイト、頑張ってくれたんだ♡」

ゆーくん 「あ、いや、リボ払いで買ったよ」

ちいちゃん 「…えっ」

ゆーくん 「…うっかな？」「の指輪、受け取ってへくれたかな？」

ちいちゃん 「えっ、ちよっつと待ってっ」

ゆーくん 「俺たち今までいろいろなとこ行っちゃったよ。

「これから先もちいちゃんともっといろいろなとこ行こっ」

ちいちゃん 「ねーねーねー、ちよっつと、ちよっつと待ってっ」

ゆーくん 「…っ」

ちいちゃん 「え、リボ払いで買ったのお？」

ゆーくん 「うっ」

ちいちゃん 「結婚指輪をお？」

ゆーくん 「うっ」

ちいちゃん 「リボ払いで買ったのかわかる」

ゆーくん 「じゃあ、なんで？」

ちいちゃん 「あー、いやいやいや、別にバイトはしてるのよ」

ゆーくん 「そっか…そうだよ、ねい、歳してアルバイトしてる俺なんか…」

ちいちゃん 「無理無理」

ゆーくん 「え？」

ちいちゃん 「いや、無理でござい」

ゆーくん 「ぶっかな、受け取ってへねるかな？」

(少しの沈黙)

ちいちゃん 「あー、なるほどね」

ゆーくん 「なんでって、便利だから」

ちいちゃん 「なんで？」

ゆーくん 「ん？」

ちいちゃん 「結婚指輪リボ払いで買ってるから無理よ」

ゆーくん 「プロポーズの時に購入方法言うのが、野暮ってこと？」

ちいちゃん 「いや、野暮とかそんな生やらしい物じゃなくて。

リボ払いなのよ」

ゆーくん 「あ、ああーそう言うことか！

月々の支払額が一定になる超便利なやつだから、大丈夫だよ」

ちいちゃん 「何が？何をもって大丈夫なの？」

ゆーくん 「そっかそっか、ちいちゃん算数苦手だもんね」

ちいちゃん 「は？」

ゆーくん 「あのね、普通カードで物買つと、その金額分払わなきゃいけないじゃない？」

ゆーくん 「けど、リボ払いにすると、払わなくていいんだよ」



ちいちゃん 「てめえ知ってるのか？リボ払いは毎月決まった額で済む代わり

に、莫大な手数料がかかんだよ！」

ちいちゃん 「使い方次第では便利な機能だけど、服とかレストランとか、まし

てや結婚指輪にまでリボ払い使ったら、手数料えげじなことにな

って元金全く減らねえだろっつがよ！」

ゆーくん 「…、元金？」

ちいちゃん 「なんで元金知らねえんだよおめえ！」

ゆーくん 「おめえじゃなくてゆーくんだよ！」

ちいちゃん 「今呼び方はどうでもいいんだよ！ってか指輪、給料3ヶ月分って

言ったか？そう聞こえたが聞き間違えか？」

ゆーくん 「うん、3ヶ月分」

ちいちゃん 「てめえのコンピニアルバイトの給料、1ヶ月で多く見積もっても1

5、6万だよな？」

ちいちゃん 「で、3ヶ月分ってこと？は50万弱。そんなバカ高えものリボ払い

で買ったら手数料いへへになんか思ってたよ！」

ゆーくん 「ちいちゃん凄いいー計算早いねー！」

ちいちゃん 「実は算数得意なもんでねー……！」

「苦手な方が可愛いと思われろと思っつてねー……！」

ゆーくん 「確かにちよつとおバカなちいちゃんの方が好きかも」

ちいちゃん 「いつまで恋人気分でいやがるんだ？このやろう」

結婚はしない。お前とも別れる。以上。解散」

ゆーくん 「ちよつと、ちよつと待ってよ。リボ払いが危険なのはわかったけど、

そんな怒らなくっついでいじゃねー！」

ちいちゃん 「これが怒らずにいられるだろうか……いや、いられないね！

怒りすぎて反語が出たわー！」

ちいちゃん 「結婚を考えてんだよな？将来を考えてるんだよな？そんな奴が何

も考えずに、リボ払い使っつてるっついでいっつのが怒り心頭ポイントで

すー……！」

ゆーくん 「え、そんなにリボ払いつつダメなの……？」

ちいちゃん 「だからオノオノからさっついでいっつてんだろっついでい」





ちいちゃん 「だろっだからこんなに怒ってるんだよ」

ゆーくん 「わあ、どうしょ…元々のお金が減ってない…あ、元金って元々のお金のことか…」

ちいちゃん 「そっ…わー、ちみっ…成長してる…」

ゆーくん 「俺、こんな何も考えずに窮地に陥ってたのか…」

ちいちゃん 「そっだよ」

ゆーくん 「ごめんね、俺、本当バカだった。うっ…」

ちいちゃん 「いや、泣くなよ。泣いても元金減らないだろ…  
でも、今気づけてよかったよ。結婚する前にね！」

ゆーくん 「これさ、リボ払いなしにできないの？」

ちいちゃん 「なしに？まあ、元金と手数料一気に払えば大丈夫だろ」

ゆーくん 「あ、なんだじゃあ大丈夫じゃん」

ちいちゃん 「ごきごき、ごきごき」

ゆーくん 「一気にポソって払っちゃえば、もう手数料とか払わなくていいって

ことだよな？」

ちいちゃん 「じゃ、それだけで。払えないからリボ払いにしようっての？」

ゆーくん 「あ、め、いや、払えるは払えるよ。会社売った時の貯金まだあるし」

ゆーくん 「リボ払いは単純に便利だから使ってただけで、お金がないから使

ってたわけじゃないよ」

ちいちゃん 「ん？」

ゆーくん 「あー、そっかー！中学生の時起業したって言ってなかったよね？」

ゆーくん 「趣味でやってたプログラミングでゲーム系の会社作ってもあんま

面白くなかったから売っちゃったんだよな」

ゆーくん 「結構そのお金がまだ残ってるんだ」

ちいちゃん 「…？…？…？」

ゆーくん 「…？…？…？…？」

(少し間があつて)

ちいちゃん 「え、そーなんだー、すーい♡」

ゆーくん 「わー、いじめるさーちゃんだーおかせーいー」

ちいちゃん 「だらけまめ♡♡」

ゆーくん 「でも、いじめるならしない俺、ダメだよ」

ちいちゃん 「うっ、ダメじゃないよお。すっごく頑張ってる、偉いよお」

ゆーくん 「ほ、ほんとーいじめる、俺と結婚してーい」

ちいちゃん 「ん、ちなみに、人生設計とかある？」

ゆーくん 「え？」

ちいちゃん 「ゆーくんの人生設計があつたら、ちい聞きたいなあ」

ゆーくん 「人生設計…？ま、まあ、マンション買つたり…」

ちいちゃん 「マンション…？首都圏のマンション価値下がってるけど大丈夫

…」

ゆーくん 「…」

ちいちゃん 「考えな」

ゆーくん 「…」

(少しの沈黙)

ゆーくん 「じゃあじゃあじゃあー！軒家にすまぬ？」

ちいちゃん 「固定資産税とかあるけど、それも大丈夫かによ？」

ゆーくん 「固定資産税…？」

ちいちゃん 「勉強しな」

ゆーくん 「…」

ちいちゃん 「あどほ？」

ゆーくん 「…、あー赤ちゃんーちいちゃんとの赤ちゃんが欲しいー！」

ちいちゃん 「待機児童の問題とかどうするー？」

ちいちゃん

「あと、育児支援金も出るけど、大学まで通うとしたら少なくとも見積もって1億くらいかかるし、私立行きたいって言ったらどうする  
〜?」

ゆーくん

「え、えーつと…」

ちいちゃん

「まさか学費もリボ払い、なんてことはないよね〜」

ゆーくん

「ま、まさかwそれは流石にないよww」

ちいちゃん

「二丁前に笑うなよ」

ちいちゃん

「私は〜人生設計ちゃんとしてる人のお嫁さんになりたいにや〜」

ちいちゃん

「これからの人生すっごくお金がかかるから〜」

ちいちゃん

「学生の時にたまたま稼げたお金だけで生活できるほど  
甘〜にやいよ〜♡」

ゆーくん

「ん、そっだね…」

ちいちゃん

「〜の〜の〜」



ちいちゃん

「終身雇用が無くなって、これからは個人がいかに稼ぐかを考える時代だからあなたが得意なことをまず分析して、それを仕事に活かすっていうことが大事で…」

ゆーくん

「ちいちゃん……周りに人が集まっている……。みんなメモとっている」

ちいちゃん

「あ……。みんな、ちゃんと考えて人生歩もうな！解散！解散！」

ちいちゃん

「とにかく、私、ゆーくんのことを応援するね……！」

ゆーくん

「うん、うん…」

ちいちゃん

「じゃあそのリボ指輪貸して」

ゆーくん

「リボ指輪って言わないでよ」

ちいちゃん

「うん、私をぜったいに幸せにしてください！」

ゆーくん

「あ、は、は…」

ちいちゃん

「絶対にな？」

ゆーくん

「はー」





ちいちゃん 「けど、籍入れるのは就職して3ヶ月経ったらね！」

ゆーくん 「わかった…」

ちいちゃん 「はー、幸せー！」